

# イベントを通して地域を元気に!

5 月3日、4年ぶりとなる「第20回龍桜船団トラック祭り」

チャリティ撮影会」が開催されました。会場には下派手な電飾やペイントを施した「デコトラ」約180台が全国各地から集結し、第20回という節目に花を添えました。イベントを支えるのは沖田ライスセンター代表の沖田芳博さん。ご自身も仕事の傍らデコトラづくりに勤しみます。

沖田さんがデコトラに興味を持ったのは10歳の頃、映画「トラック野郎」のプラモデルを買ってもらったのがきっかけ。以降、生のデコトラを見るために雑誌を調べ、近隣の町まで自転車で何度も通ったそうです。

「トラック運転手は近寄り難い感じがある。そのイメージを払拭したい。なによりも自分たちが大好きなデコトラ文化をみなさんに知ってもらいたかった」とイベントを始めた当時を振り返ります。「第1回目の開催には苦労した。伊佐では前例がなかったため、会場の確保や騒音の問題など関係各所との調整が難航し、結局その年の開催は断念した。そこから1年間、【失敗と書いて経験と

読む】という言葉を経験に、全国のイベント事例などを参考に根気強く説得し、ようやく開催にこぎ着けた。イベントは子どもを育てている感覚。だからこそ終わった時に涙がでたり、ホッと安堵したりする」と話します。他にもさまざまな困難があったそうですが、これまでの経験を活かし、今では多くの来場者で賑わう名物イベントとなりました。

「周りの人に助けられて僕は生かされている」と、人との繋がりを大切にしている沖田さん。地域の行事も積極的に企画しています。仕事との両立は大変じゃないですか?と尋ねると「とにかく楽しい。周りからは一生懸命と言われるが、どうせやるなら楽しまなきゃ損。自分の住む地域に元気があると言われると嬉しい」と話しました。

今後は、特に若い世代にイベントの企画や、参加する楽しさを伝えていきたいとのこと。「まだまだ次の世代に譲る気はないが、一緒に頑張って地域を盛り上げていけたら。生涯現役!」と意気込みを語りました。

※龍桜船団は結成26年目で、チャリティイベントのほか、県北部豪雨災害や熊本地震の際の炊き出しなど、被災地支援も精力的に行っています。今回のイベントでは収益の中から伊佐市に10万円の寄附をいただきました。



あっぱれ! Vol.37  
**伊佐盛**  
イサモリ

沖田芳博さん